

深層水の定義は、水深200m以下の海水。
しかし、200m先へも太陽光が差し込む
透明な久米島の深層水は600mから採取。



時が育んだ命の水。
地球の水分の約90%以上が
海水という豊かさ。

最近、頻繁に耳にするようになってきた海洋深層水。普通の海水とどのように違うのか。存知の方は少ないでしょう。

深層水の生まれる場所は、グリーンランド周辺です。北大西洋に深く沈んだ水は、二千年もの悠久の時を刻み、太陽の光や大気と接することなく沖縄周辺までたどり着きます。地球をぐるりと流れるこの深層流は、さまざまな栄養素を取り込んで移動し続けています。

まず注目したいのは清浄性。深層流には太陽の光が届きません。つまりプランクトンが生息しておらず、有機物が少ないため、細菌が存在しないきれいな海水となります。また、汚染物質の影響を受けにくいことから「安全性の高い海水」と言われています。

次に豊かな栄養性。窒素やリン、けい素などの栄養素が、表層水の数倍から数十倍含まれている訳は、深層には光が届かず光合成が行われないために、それらの栄養素が消費されずにたぐり残っているか

らです。

さらに年間を通して水温が低く、
気の遠くなる年月をかけて高水
圧下を流れているため、品質は常
に安定しています。これこそ海洋
深層水の底力なのです。

日本で最も深い場所から
くみ上げられる深層水。
それは透明度の高い証。

深層水の定義とは、「水深
200m以下からくみ上げたもの」
ですが、じつは私たちが注目する沖
縄・久米島の深層水は612mも
の深さから取水されています。

これは久米島の海があまりにも
美しく透明度が高いため、200
mの海中でもまだ十分に太陽の光
が差し込んでしまうからです。久
米島には大きな工場や大規模な
住宅地がなく、工業排水や生活排
水による海洋汚染がほとんどあり
ません。その汚れない海からの取
水量は、1日に約二万三千トン。日
本海や四国沖で取水されている深
層水が平均三〜四千トンと言われ
ている中、この豊富な量は久米島だ
からこそ。また世界では、ハワイに次
ぐ2位の取水量を誇っています。